



令和5年度 諏訪二葉高等学校評価表（年度末・学校評議員）

長野県諏訪二葉高等学校 学校評価委員会

本校の学校教育目標	1 自主 2 努力 3 感謝
中長期目標	1 生徒一人ひとりの個性を伸ばし、主体性のある心豊かな生徒を育成する。 2 開かれた学校をめざし、保護者・地域から信頼される学校づくりを進める。
本年度の重点目標	1 キャリア教育を通じて自ら学ぶ姿勢を育て、生徒の進路希望の実現を図る。 2 「探究的な学び」を取り入れた授業改善により、生徒の課題解決力・コミュニケーション能力の育成、学力向上に努める。 3 いじめ、体罰のない安心・安全な学校づくりを図る。 4 学校生活の基盤となる規律ある生活態度を育成する。 5 生徒会活動や部活動の活性化を図り、生徒の自主性を育てる。 6 地域と連携し、開かれた学校づくりを推進する。

目標の項目別の評価とコメント

評価方法 A: 成果が見られた B: 向上が見られた C: 改善が必要である

重点目標	評価項目	評価項目と評価の観点		観点別 評価	項目 評価	成果と課題	改善策
		評価の観点					
1 生徒の進路 実現を図る	より高い進路意識の育成を図り、分析会議等を充実させ学力向上の改善策を提言する。	①	・PTA及び同窓会と連携した進路講演会の開催や進路通信の発行により、生徒・保護者に必要な情報を提供し、進路実現に向けた高い意識を涵養し、協力関係を強めて進路実現につなげていく。 ・学級担任や学年と連携を図りながら、生徒ひとりひとりの進路相談に応じて個の可能性を広げ、きめ細かい指導と情報提供を行って進路実現の手助けをする。	B		・PTA総会時には外部講師を招いて、学年別にそれぞれの段階に応じた講演会を行った。また、学年ごとに実施された秋の懇談会では、関心事項に応じた説明を実施することができたが、その内容が中途半端になってしまっているのがあった。 ・担任の先生方は、関係予定表以外のところでも生徒面談を行ってきた。進路相談に頼らず、きめ細かい指導を行うことができた。 ・夏休み直前に、長野県立大学、長野大学、公立諏訪東京理科大学、長野県看護大学の入試担当者による講演会を行った。また、冬休み前には信州大学の学部ごとの説明会を開催し、県内国公立大学への生徒の関心を高めることができた。	・秋の懇談会での説明は、内容を精査するなどスリム化に向けた工夫をしたい。また、3年生の保護者向けの説明は、もっと早い時期に聞きたかったという声に对应していく必要があると考える。 ・大学・入試研究については、生徒や職員を対象とした研究会・説明会が開催できるように環境を整えた。 ・大学説明会や模擬授業など外部と連携して実施する事業は、年度当初に予定を示せるようにしたい。
		②	・学習・キャリア教育と連携しながら、模試分析システム等を活用してスクリーンサポートや模試の分析を行い、学力・学習実態を把握する。また、進路実現に向けた模試分析会議や進路検討会を開催し、情報と学年・教科と共有する。 ・学力向上および新大学入試に向けて先進的な取り組みをしている学校の例を参考にしながら、本校における改善策を検討・実施する。	B		・スタディサポートの結成について、ベネッセコーポレーションの担当者を招いて分析会を行った。教員間で課題を共有することができた。 ・模試についても計画通りに実施することができた。生徒にとっては自分の学習を振り返る機会や志望校との距離をはかる機会となった。しかし、模試の分析や結果の共有については、教科に情報も流すことができていなかった。	・模試については、生徒に「事前学習」と「事後学習」を指導してきた。次年度は「事前学習」及び「事後指導」をより有機的に取り入れられたらと考えている。学習係との連携も必要である。 ・模試の結果（特に3年生）については、その都度結果を分析しながら生徒の課題把握とその解決に繋げたい。
	生徒の進路実現を図る						
		キャリア教育の充実を図る。	①	キャリア教育全体計画に従い、次の目標を達成させる指導を行う。 ・総合的な探究の時間を通して自己を理解し、職業観や生き方など自分の将来像を描き、その実現のために学ぶという目的意識を持てるように、寄り添い指導していく。 ・情報収集判断能力、プレゼンテーション能力、自分自身の考えを伝える、相手の考えに耳を傾ける力を育てる。 ・幅広い分野についての探究を通して、地域社会の新たな課題を発見し、地域社会の一員として行動する態度を育成することができるようになる。 ・地元企業を知るや諏訪工業グループを通じ、現場の方の経験談を聞くことで、明確な将来像を描きながら学習できるように、計画・実施する。	B	B	・総合的な探究の時間の取り組みとして、1学年は前期に「ワードロス」をテーマにしたグループ探究を行った。また、学年発表会も企画し、情報収集判断能力、プレゼンテーション能力、自分自身の考えを伝える、相手の考えに耳を傾ける力を育てることができた。また、地元について学ぶことを目的とし、諏訪市役所や諏訪市博物館に協力いただき、講演会を行った。さらに、「地元企業を知る」としては10社に協力いただいた。2学年は個人探究を行い、自分自身の興味関心について深める活動を行うことができた。年度末の最終発表会を通して、プレゼンテーション能力、自分自身の考えを伝える、相手の考えに耳を傾ける力を育てることができた。 ・諏訪工業グループに12学年が参加した。1人3社に達して、ヒアリングを行うことで、諏訪地域の企業や大学から様々なお話を伺う、いい機会となった。 ・夏休み中の職業体験などには3名が参加した。また、小学生への補習支援に上諏訪小学校4名、上諏訪中学校13名、諏訪中学校4名が参加し、教員についての理解や自らの学習内容の理解度について再認識することができた。大変いい取り組みになった。 ・WWLの連携校として、8月に信州大学農学部で行われたCultural Connections・8名の生徒が参加し、留学生とAll Englishによる対話を行った。夏休み中、主体的に学びに向かう生徒たちの姿から、来年度は夏休み中に行事を実施し、多くの生徒たちが力を伸ばす期間となるようにしたい。
2 生徒の学力 向上に努める	生徒の学習意欲の向上に努める。	①	研究授業や授業アンケートの分析に基づき、より一層の授業の充実を図る。生徒の興味、関心を引き出すことができる授業を実施していく。	B		今年度は、3教科で研究授業を実施した。見学者も多く、教科の壁を超えたい時間となった。ロイノート研修会を校内で行うことができた。ベテランから若手まで授業改善について考える時間となった。	・来年度も研修会等を計画し、職員全体へ共有していきたい。
		②	学習室、テスト前学習室等を設置し、定期考査に向けた学習を大切にさせるような環境・雰囲気作りにつとめる。	B	B	学習室の設置、テスト前学習室の設定をし、生徒たちが快適に学習できる環境を作ることが出来た。しかし、利用者や参加者が少なくなってしまう。	・学習室の利用について、現状や生徒のニーズを鑑みて検討したい。 ・テスト前学習室については、進路係と連携し、模試対策や復習の時間にするセミナーの実施を検討したい。
	生徒の学習習慣と学力の定着を図る。	①	学習実態調査等を利用し、規律ある生活と家庭学習の習慣の確立を図る。	B	B	・テスト前に学習習慣調査を実施し、生徒たちの実態を把握することが出来た。	・調査した結果を全職員に共有するとともに、検討する機会を計画したい。
		②	毎日の授業を大切にするとともに、土曜講座や朝・放課後の学習等を充実させる。テスト前学習室を設け、復習、質問等きめ細かに対応し、さらなる学力の定着をはかる。自ら学ぶ意識を持たせ、家庭学習の充実につなげる。	B		・土曜講座は年度当初の計画の通り、実施することが出来た。朝・放課後補習も実施し、きめ細かい指導を行うことが出来た。	・土曜講座の内容や実施時期について見直し、さらに良い内容にしていきたい。
3 安心・安全な学校づくりを図る	安心・安全な教育環境を作る。	①	いじめ、不登校など生徒の動向を細かく観察し、問題等を的確に把握し、適切に対処する。	B	B	担任、学年を中心に不登校傾向の生徒に対応した。	いじめ、不登校については生徒の状態を正確に把握し、特別支援係や、コーディネーターの方々と、また家庭と連絡を密に取れ今後も進めてゆきたい。
4 規律ある生活態度を育成する	規則を守り、生徒が安心して生活できる環境を整備する。	①	登下校時の街頭指導やHR連絡を通して、自転車乗車時のヘルメットの着用や交通マナー、ルールを守る意識を高めさせる。そして自分自身や周囲の人の安全にも配慮するようにつとめる。警察とも連携して登下校時の安全確保に務める。	B		春、秋恒例の登校指導を行った。近隣の方々より、今年も登下校のマナーに関するご意見を頂くこともあったが、指導の甲斐もあったか、その数は昨年より大幅減少したことは良かった。ただ自転車事故が4件ほど（自損3件、自転車との接触1件）があり、ヘルメットの不着用もあったので引き続き、交通安全意識向上のための啓発、指導を続けたい。	登下校時の歩行マナーや、自転車の安全走行に関しては、坂道は降車して、自転車を押して歩くことや、歩きスマホ、幅を取っての歩行などへの注意およびヘルメットの着用など、生徒への注意喚起を継続していく。
		②	高次生らしい服装・服装で学校生活が送れるよう、生活環境委員会からの呼びかけを積極的に行い、家庭とも連携をとりながら、理解や協力を得るようにつとめる。	B	B	生活環境委員を通じて、行事時（文化祭・クラスマッチ）等では服装の乱れなどが無いよう、呼びかけを行ってくださり、服装等に問題がある生徒もほとんどおらず、ご家庭や各クラス、各クラブで指導して下さった。保護者、先生方に厚いお礼を申し上げます。今後も引き続き指導をお願いしたい。	左記にも記したように、各場面でのご指導に感謝し、生活環境委員会による呼びかけも継続していく。
		③	特別な支援を要する生徒の把握に努める。個々の生徒の状況に応じた柔軟で多面的な支援をする。	B	B	担任や養護教諭との連携を図り、状況把握に努めた。心に悩みを抱える生徒のケアや保護者のケアなど、希望を優先しつつSCやSSW、教育相談（諏訪会）、病院等の専門機関と連携しながら対応することができた。	必要に応じて支援会議を行い、更に学年を超え、情報と共有し、個々に応じた支援方法を検討する。
5 生徒の自主性を育てる	生徒会活動の活性化を図る。	①	生徒の発想を活かしながら、テーマに沿った文化祭の企画や展示が行われるよう、各係間や生徒と教員との連携を図る。	A	A	コロナ明けとなった文化祭。本年度は特に大きな規制がない中で実施となったが、コロナ禍での実施として良かった部分も継承しながら企画運営した。[Infinity]を文化祭のサブテーマに、思い切り踏み込んでスタートした文化祭。朝祭祭のオープニングで見た生徒の顔は大変印象的な姿であった。何種も力を注ぎてよかった。朝・夜祭祭を企画し、発表・発表の場を設けて、不安な生徒の姿も、雰囲気は後押しされ、次回は会場が盛り上がり、中々で増えた。生徒の満足の笑みは、近年の文化祭にはない姿で、うれしさを感じた。一般公開も規制を外し実施。2日間で累計3,167名の来校者を記録し、2日間で6店舗を増やして対応を考えたキッチンカーも、予想を超える来校者で長蛇の列ができてしまった。来年度実施に向け課題が浮き彫りになることも想定外の事であった。こういった経験は、生徒の成長の材料として取りたい。来年度も一生懸命考えて二葉祭を実施していきたいと考える。	本年度の文化祭で出てきた検討材料は沢山ある。2024/2・10合宿所にて拡大役員会を開き、来年度実施の二葉祭に関して検討する。企画案や対策案を検討予定。
		②	各委員会での当番活動を充実させ、生徒が意識と責任をもって委員会活動に取り組むことができるよう努める。特にエコマネジメントについて、各委員会での活動などを行うことができるかを検討し、生徒・職員が協力し成果を上げるようにする。	B	B	おおかた計画通り実施することができた。企画の計画・立案、各委員会や役員会、さらには職員会議での承認など、企画を実施するまでの工程に工夫が必要であると考える。よりスピーディーな企画実施に繋げたい。しかし一方で、前年度を立て実施する事の大切さも忘れたいようにしている。なかなかないかもしれないが、来年度も一生懸命考えて二葉祭を実施していきたいと考える。	当番活動などは、責任をもって取り組んでいる。 委員会活動・生徒会行事が充実した活動となりよう支援していく。 また、企画実施までの簡略化や職員会議での承認の有無など、生徒会顧問会議で検討していきたい。
	部活動等の活性化を図る。	①	部活動が円滑に運営されるよう、部長（代表者）会の開催などにより活動環境を整備するとともに、生徒が自主・意欲を持って取り組めるような働きかけをする。	B	B	部長会を開催し、部室管理・練習環境の整備ができた。活動環境は、両面の学校と比べて良いとは言えない。多くの部がある本校であるが、それに对しての練習場面の狭さや時間配分の難しさ、施設の老朽化等様々な問題を感じる。職員員の減少に伴い、外部指導者の積極的な導入や、部の統廃合も考えなければならないと考えるが、現実難しい状況である。 今年の3年生が卒業すると、本校女子サッカー部所属職員は6名と少ない。後期生後援会において、2024/3/31以降所属する部員が無い場合、来年度より女子サッカー部は同好会としての活動となる事が承認された。また、女子バスケット部も来年度より同好会となる事は承認された。	練習環境整備について生徒が責任をもって活動していけるようにより支援する。 また、施設の老朽化等に伴うケア等がないよう、活動環境を整えていく努力もしていきたい。
	PTA活動の充実を図る。	①	年度当初の混沌を克服し、PTA活動の周知と多くの会員の参加により活動の活性化を図る。無理のない活動や交流の機会を検討する。	B	B	コロナ禍を経て、PTA活動は大きく変化した。主な活動は、学年懇談会と学級懇談会だったが、PTA役員としての役目がほとんどなく、保護者は学校からの情報を受け取るのみであったため、PTA主催という形にはなっていないように感じた。	保護者が学校に何を求めているのかをリサーチして、懇談会の充実を図りたい。また先生方も保護者が必要としている資料や懇談会の内容を検討してもらう。
6 開かれた学校をつくる	地域との連携を図る。	①	学校評議員や保護者、地域からの声など外部の意見を積極的に聞くことと体験入学・公開授業等、学校を開放する機会を設ける。様々な機関と連携し、生徒の探究活動を支援する。	B	B	予定通り春・秋2回の授業公開、中学生体験入学を行うことができた。学校の様子をよりわかりやすく伝えることが課題。	授業公開での資料や内容について検討し、二葉での学校生活や授業の様子がわかりやすく伝わるような工夫を考えていく。
	広報活動の充実を図る。	①	教育活動内容をWebサイトを通して速やかに発信し、生徒の日々の活動が迅速に伝わるようにする。学校案内・パンフレットがわかりやすいものになるように工夫する。	A	A	Webサイトは様々な行事などとともに掲載し、新情報に更新することができた。また、文化祭や修学旅行、部活動紹介ページ等については、写真を充実させ、わかりやすく見て楽しいページを作ることができた。生徒ページ作成に関わる機会を作ることが難しかった。	部活動や生徒会行事等については、情報発信に生徒がより多く関わるようにすることができよう工夫を考えていく。また、幅広い年齢層の方々への情報発信についても工夫したい。